

# うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより  
第17号  
2018(平成30)年5月26日  
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

## 原点に戻ることの大切さ — 機織り1年 その1 —

機織り教室に通いはじめて丸1年が経ちました。自宅で機を織り始めてまもなく5ヶ月。ようやく機織りの全体像がわかるようになってきました。自宅にある手機(てばた)を用い、自分一人で糸巻きから整経、巻き取り、綜統(そうこう)通し、箆(おさ)通し、織り付けを手がけた作品は、現在で3作品目。今回は、機織りに取り組みはじめてちょうど1年を迎えたこの時期に、糸と向き合う中で感じたことについて記してみたいと思います。10年後、20年後に、まだ機織りを続けている自分がいたとして、この1年目の感想をどのような気持ちで読み直すかを楽しみにしながら…。

ポイントは4点です。①「焦って、良いことは一つも無い」。②「間違いに、気づいた時点で原点に戻る」。③「誤魔化しは、問題の解決にはなり得ない。逆に傷口を大きくするだけ」。④「まず何よりもビジョンが大切」。以下に解説を掲げます。

まず、①について。糸は、もともと絡みやすい性質を持っています。たとえば、整経作業をする際に糸枠を離して並べていても、気を抜けばすぐに隣の糸枠の糸を連れてきます。箆通しをする時なども同じです。一度絡んでしまった糸を上手に元に戻すには、とにかく焦らずに、ていねいに、ゆっくりと糸を扱うことです。もとは離れていた糸です。意図的に絡ませた糸ではありません。落ち着いて扱えばすぐに戻せるはずなのに、焦ればあせるほど糸の絡みを複雑にしてしまい、容易には元に戻せなくなります。「焦り」は、自分で自分をひたすら追い詰めているようなものです。糸を扱う時には意識して、「焦って、良いことは一つも無い！」と自分に言い聞かせながら作業をするようにしています。

次に②について。機織り教室で使う織機は、1年目の生徒は飛び杼(とびひ)式の高機です。飛び杼とは、眼前のヒモをひっぱるだけで、杼が左右に動くもので、従来の高機に比べて作業効率を格段に向上させたものです。ところが、いくら便利な飛び杼でも慣れない人間が扱うと力加減がわからずに、杼を勢いよく飛びはねさせてしまったり、途中で止まらせてしまったりと、思いもかけない失敗をします。そして、その際に杼が思わぬ糸のくぐり方をしてしまうことが多々あるのです。経糸のくぐり道を間違えると、織り上がりに乱れが生じるのは当然です。上から見ているだけではわからない糸の乱れも、下から見るとはっきりとわかります。たった1箇所でもそのような間違いを見つけたときは、面倒がらずに、もういちど同じ作業を逆に繰り返しながら、原点(間違いのない正しい地点)までもどるようにします。時間はかかります。面倒です。でも、ただそれだけです。私が初めて織り付けをしたときは、織り進んでいる時間よりも、元に戻す作業をしている時間の方がよほど長かったような気がします。しかし、その体験を通して、時間がかかっても、面倒でも、間違いに気づいた時点で原点に戻ることの大切さを教えてもらったような気がします。(以下、次号)



「原始機作品展」の様子

※今月号より各種月間統計の締切日は23日に変更しました。

### ----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 平成30年4月26日～平成30年5月23日)

群馬県1、埼玉県1、東京都1、神奈川県1、石川県2、長野県1、京都府1、兵庫県2、奈良県1、島根県1、徳島県1、福岡県1、鹿児島県1

【H.A.M.A.木綿庵】(平成30年4月26日～平成30年5月23日)

メールを含む各種相談件数5、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数3件21名



## 《綿の種まき&草木染め体験 — 平成30年5月3日》

午前11時より1号畑にて開催。参加者17名。最初に当日のプログラムと綿の種まき要領について説明。その後、参加者全員で綿の種まき。前夜の雨で畑は少々ぬかるんでいましたが、みなさんのご協力を得て、約30分で種まきは完了。その後、草木染めの説明と実演、体験に移りました。

今回の染材はフクギ(福木：採取地沖縄県)、カリン(花梨：採取地天理市乙木)、ビワ(枇杷：採取地天理市岩屋)の3種。前処理には豆乳と濃染処理剤を使い分け、媒染材として椿灰と藁灰を用いました。ご参加下さいましたみなさん、ありがとうございました。



## 《綿の栽培記録 2018》 — 平成30年度版 その1 —

今年も八十八夜の翌日5月3日に種まきを行いました。今年是和綿を100穴、洋綿を40穴に3点蒔きで植え付けました。一番早いものは3日後に発芽。その後の発芽数は以下のとおりです。

なお、3点のうち1点でも発芽していれば、その植え穴は「発芽」とカウントしています。

5月10日：和綿74穴、洋綿 2穴。

5月12日：和綿79穴、洋綿11穴。

5月15日：和綿90穴、洋綿30穴。

その後、2号畑に和綿の茶綿を、2号畑の西隣の借地に和綿の白綿を追加して播きました。

5月5日 和綿の茶綿播種16穴。

5月6日 和綿の白綿播種81穴。



また、草木染め用に2号畑と2号畑西隣借地で、藍(タデアイ)と紅花も栽培をはじめました。

初めて栽培する和綿の茶綿の種は東京大学教育学部附属中等教育学校の先生より、藍の種は徳島県板野郡にある阿波藍資料館「三木文庫」の学芸員の方よりご提供いただきました。

写真左は1号畑での和綿の発芽の様子、右は2号畑西隣地の藍(タデアイ)の定植後の様子です。

### 【綿の加工の作業記録】 (梅田1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成28年, 2016産。丹羽正行氏による打ち綿)
- 4月26日～5月23日 (作業実日数18日) 糸の総量46.7g (12.45匁) 総時間105分 (1時間45分)
- ※1分間≒0.445g 1時間≒26.7g (7.1匁)

### 【研修等の記録】

- 平成30年4月28日 月ヶ瀬奈良晒保存会の石原良子氏より糸紡ぎについてアドバイスを受ける
- 平成30年5月 3日 木綿庵1号畑にて「綿の種まき&草木染め体験」実施
- 平成30年5月12日 天理大学附属天理参考館にてワークショップ「綿に親しむ」の講師を担当
- 平成30年5月13日 「相楽木綿伝承館：機織り教室上級コース④」(京都府相楽郡精華町) 受講
- 平成30年5月18日 「原始機作品展」(奈良大乘院庭園文化館ギャラリー) を訪問、見学
- 平成30年5月20日 「相楽木綿伝承館：機織り教室上級コース⑤」(京都府相楽郡精華町) 受講
- 平成30年5月22日 ボーケン品質評価機構(大阪府中央区淡路町)を訪ね、4種の原綿の検査を依頼
- 平成30年5月22日 「湯水美術館」(大阪府中央区平野町)を訪ね、春季展を見学